

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会	会議場所	全員協議会室
		担当職員	駒田
日 時	令和5年9月1日（金曜日）	開 議	午前 9 時 30 分
		閉 議	午前 9 時 58 分
出席委員	◎木村、○法貴、林、片山、山木、齊藤		
出席理事者	【産業観光部】松本部長 【農林振興課】高木課長、中川副課長兼営農推進係長事務取扱、 綾野森林・鳥獣対策係長		
出席事務局	井上事務局長、駒田主査		
傍聴者	市民 0 名	報道関係者 0 名	議員 1 名（小川）

## 会 議 の 概 要

9 : 3 0

### 1 開会（木村委員長あいさつ）

〔事務局日程説明〕

### 2 案件

〔産業観光部入室〕

〔産業観光部長あいさつ〕

#### （1）林道管理事業経費について

〔森林・鳥獣対策係長資料に基づき説明〕

9 : 3 8

〔意見交換〕

<山木委員>

林道に水がたくさん流れて洗掘してしまうことが多いと思う。ラバーを入れて横断されていると思うが、水が多く流れるところはピッチを増やすなど、設置の基準は決まっているのか。

<森林・鳥獣対策係長>

ラバーについては、カーブの手前や斜面の下など、水の流れがカーブするところでうまく側溝に流れるように設置している。ピッチを設置する基準などは設けていないが、林道の形状により適切な箇所に設置している。

<山木委員>

洗掘された箇所に土を戻す方法では限界があると思うので、排水処理の方法を検討いただきたい。

<木村委員長>

毎年同じように修繕しなければならないのか。

<森林・鳥獣対策係長>

毎年対応しており、現在の予算規模では客土を戻すのが精いっぱいである。コンクリート舗装やアスファルト舗装などの手段もあるが、水の流れが速くなり森林に入ってしまうおそれがあるため、全面は難しい。洗掘が激しい箇所など部分的に検討していきたい。

<齊藤委員>

コンクリート舗装など保水力のない道路では水の流れが激しくなり、大きな災害につながる可能性があるため慎重に検討しなければならない。側溝に詰まっている落ち葉などが管理できていないことが一番の原因と考えられるが、どのように管理されているのか。

<森林・鳥獣対策係長>

御指摘のとおり、雨が降った翌日に側溝が詰まってあふれる状況がある。今後の対策として、大雨の翌日などに林道の点検と併せて側溝の流れを戻すよう清掃などにより対応したいと考えている。

<山木委員>

資料1枚目、のり面が崩れてきている箇所は客土しかないのか。

<森林・鳥獣対策係長>

資料の箇所については以前から何度か修繕しており、大型土のうを置いた上で崩れている箇所を埋めている。客土の部分が崩れてきているため、もう一度大型土のうにより水平を取るような方法も検討していきたい。

<山木委員>

土のうの耐久性が分からないところもあると思うので、蛇簗や植栽、コンクリート吹付などの工法も検討いただきたい。

<森林・鳥獣対策係長>

植栽も一つの方法だと思う。費用対効果も含めて総合的に判断していきたい。

<片山委員>

亀岡市内の林道が62路線ある中で市の直轄林道が3路線とのことであるが、残り59路線の管理主体は地域の任意団体や森林組合か。

<森林・鳥獣対策係長>

市の直轄以外については、保全会や財産区管理会などにより地元で管理いただいているのが実情である。ただし、大きな災害などで崩れた場合には災害復旧事業という形で一部対応している。

<産業観光部長>

林道は個人や財産区の山に林業用の作業道として設置されているもので、その設置目的から、費用対効果を考えると側溝などの道路機能のさらなる整備が難しい。さらに、林業を行うに当たって新たに管理道や作業道を造ることからどんどん道が枝分かれしていくため、林道の確保がしづらい状況もあり、地元と十分協議しながら進める必要がある。現在は、亀岡市森林組合と連携し、平常時の管理や大雨の後の現場確認を分担して行っている状況である。また、林道松尾谷線についてはここ数年土砂崩れがひどい状態であったが、今年発生した保津川下りの転覆事故を受けて、緊急車両が通れるよう府道と併せて京都府と順次整備を行っているところである。

<木村委員長>

今回対象事業として林道管理事業経費を選定したのも、林道整備の予算を拡充すべきではないかという意見が多かったからである。保津川下りに乗船すると林道の崩落箇所が目につくので、緊急車両が通れるよう早急に整備いただきたい。

<産業観光部長>

京都府や保津川遊船企業組合とも連携し、林道について通報があった際の連絡体制を構築していきたい。林道松尾谷線は落石も多いため通常時は通行禁止としているが、緊急車両が通行できる状態は保ちたいと考えている。

<山木委員>

林道松尾谷線は幅員が狭くＵターンできないため、整備に当たってはＵターンできる場所を設けることができればよいと思う。また、落石が保津川まで落ちてくる危険性があり、防護柵の設置も含めて管理方法を検討いただきたい。これは要望としておく。

9：57

[産業観光部退室]

<木村委員長>

この後は亀岡市土づくりセンターの現地視察を行うのでよろしくお願いします。次回の決算分科会は、9月13日（水）産業建設常任委員会の議案審査後に開催し、論点整理を行うのでよろしくお願いします。

～散会9：58